

# 週刊新社会

5月15日 2018年 火曜日発行 第1066号 [通巻1187号]

振替00140-0-149727 1ヵ月600円 164円 1部150円 41円  
発行所:新社会党 http://www.sinsyakai.or.jp/ E-mail/honbu@sinsyakai.or.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3F TEL.03-6380-9960 FAX.03-6380-9963

### ◆今週の紙面から◆

- 「生活援助」を削減する介護保険制度の新段階 3面
- 「諦めないことが勝つこと」 糸数慶子<sup>さん</sup>講演 4面
- 井関農機労契法20条一審裁判決 格差是正へ 6面
- 「夫婦の氏と選択的夫婦氏制度」 二宮講演① 7面

「いいね!日本国憲法」「9条改憲NO!」などポテッカーを掲げる東京集会の参加者=5月3日



3000万署名  
中間集約

1350万筆

憲法集会  
全国250カ所  
東京では6万人

憲法施行71周年の5月3日、安倍改憲を阻むため全国250カ所で開催された集会やデモが行われた。東京集会は6万人が参加する中、「安倍改憲NO!憲法を生かす全国統一署名」の中間集約数が1350万筆に達したと発表され、3000万筆達成へ一層の奮起を呼びかけがあった。

## 腐敗一掃・安倍打倒 沖縄と連帯

壇上に掲げられた中間集約「1350万筆」の作家、学者から問題提起がされた。その中で、竹信三恵子・和光大教授は「憲法9条は狭い概念ではなく、すべての社会生活に関わる問題」と提起。9条が改憲され、軍事優先となれば、憲法24条(両性の平等)、25条(生存権)、26条(教育を受ける権利)、27条(労働の権利)をはじめ国民生活や社会保障条項などは軽視される。これと9条改憲とを結びつけることの重要性を強調した。また、トーク2部では沖縄やフクシマなど、安倍政治と闘う様々な分野から8名の発言があった。政党は4党が、安倍改憲を許さない力強い決意を表明した。

会場参加者の目を集めたのは、今年の企画の「プラカードコンクール」だ。全国各地の運動団体のプラカードから、選ばれた3団体、1個人が紹介された。最後に主催者が行動提起、特に「3000万署名」達成に向けた一層の奮闘、「森友・加計疑惑」などの政治の私物化に対する国会内外の追及、6月から本格工事が強行される沖縄・辺野古に対する全国支援などを提起。6万人の参加者は、東京臨海部をデモ行進した。

### 羅針盤

5月5日はマルクス生誕200年の日であった。各所で集会があった。キリスト教や釈迦と違って神霊的な存在ではないので、生誕の意味を問うよりも、生涯の業績を記念しようというものである。マルクスは古い、誤りだらけの言説には荒唐無稽なものが多い。『資本論』が著された1867年は、日本はチョンマゲの時代であり、それをよしとするのは、チョンマゲをよしとするに等しいという類である。憲法についても同様である。外国では憲法は頻りに変えられているのに、日本では70年も改正が試みられていないというのである。それは違う。変えようとする試みが執拗にされてきたのに、変えてはならないとすわたり続けているのである。

# 土砂投入の重大局面へ

## 辺野古新基地建設許すな!

# 本土からの連帯行動を

### 連続6日間の 500人行動

#### 新社会党が派遣団

集中行動の6日間、と抗議船11隻による海キャンプシュワブゲート上座り込み行動も行われた。何より大きかったのは、ゲート前の現場の果たす決定的役割を、全国の沖縄に心を寄せる人々とともに再確認できたことだ。行動初日、座り込み25日にはカヌー83艇の排除に5時間半を要した。県警は、翌日から200人体制へ倍増。速捕に応じた。県警の暴力的排除に、ネットやエンジンを使った高里鈴代共同代表が、鎖骨を骨折するなど、負傷者も続出した。県知事の指導・要請を無視し、非暴力で抗議する権利に対しては暴力団長の保田東中執は、



キャンプシュワブのゲート前に座り込んだ人々は、ゴボウ抜きにスクラムで対抗した=4月26日



非暴力で闘う市民に対して、権力は暴力的排除で応じた=4月27日

的排除で応えたのだ。長期の闘いを支えてきたのは、現場の力だ。沖縄戦占領期体験、今日に連なる基地被害の現実、そして現場を鼓舞する歌声、これらがゲート前テントでの交流は、世代と地域を超えて人々の心をつないでいた。2年前、米軍属によって20歳の命を絶たれた女性の命日でもある。ゲート前では「屈辱の日を忘れず」を強く自覚した。

女性を暴行から守ろうとして警官が米兵に射殺された1945年の事件など、沖縄県警の持つ独自の歴史に触れて、翁長雄志知事による埋立承認「撤回」の動きも加速することになる。今回の沖縄からの呼びかけによる集中行動から、今度は本土には国会包囲行動が取り組まれる。「基地の県内移設に反対する県民会議」など8団体が共催する。

「連続6日間500人集中行動」を呼びかけ成功させた皆さん、長期の闘いを支えてきた「へり基地反対協」や「オール沖縄会議現地闘争部会」をはじめとする皆さんに、心からの連帯を表明したい。11月知事選に向けて、翁長雄志知事による埋立承認「撤回」の動きも加速することになる。今回の沖縄からの呼びかけによる集中行動から、今度は本土には国会包囲行動が取り組まれる。「基地の県内移設に反対する県民会議」など8団体が共催する。

6月には浅瀬の海を護岸で囲い込み、土砂を投入する方針との報道がある。土砂が投入されれば、美しい辺野古の海は取り返しがつかなくなる。

「絶対に食い止めなければ!」と5月26日(14時から15時30分)には国会包囲行動が取り組まれる。「基地の県内移設に反対する県民会議」など8団体が共催する。

美ら海壊すな!  
土砂で埋めるな  
5月26日 国会包囲